

旧統一協会 = 勝共連合が謀略ビラを配布

靈感商法の被害者 救済に当たる弁護士 への誹謗中傷は許しません

国際勝共連合と名乗る団体が、大楽毛や鳥取など、各地で「旧統一協会つぶしに狂奔する弁護士グループ」＝反日左翼系とのビラを配布しています。国際勝共連合とは、旧統一協会が自民党の選挙運動を手伝ったり、反共ビラを配布するときに使う別名、旧統一協会と表裏一体の組織です。



解散命令必至の旧統一協会は、「全国弁連」と共産党などへの攻撃で生き残りをはかろうとしています。

国際勝共連合のチラシは、旧統一協会の靈感商法を厳しく批判する弁護士を名指しで、共産党系・旧社会党系とレッテルをはって攻撃しています。しかし、肝心の「靈感商法」の問題にはだんまり。「先祖が成仏できずにとたっている」などとマインドコントロールをして、壺を買わせたり、多額の献金をさせて、多くの家庭崩壊を招いたことは誰も否定できません。旧統一協会と深い結びがある自民党もかばいきれず、政府も裁判所に「解散命令」を出すよう求めるところまで追い詰められました。それなのに、靈感商法を反省するどころか、居直って、追及の先頭に立ってきた弁護士や共産党に攻撃の矛先を向けたのが、今回のチラシです。

◆◆スパイ防止法ってなに?◆◆

国際勝共連合のチラシは、全国弁連や共産党がスパイ防止法に反対しているのが問題かのように書いています。

「国家機密の保護」という名目で取り締まるべき国家機密の対象をどんどん拡大し、報道機関の自由な取材も国民の知る権利も大幅に制限し、違反者に厳しい処罰を加えるのがスパイ防止法。政府の使い方次第では、民主主義を圧殺する切り札にもなりかねません。こんなスパイ防止法に反対するのは、弁護士にとっても、共産党にとっても当然のことです。



そもそも、国

際勝共連合を日本に引き入れ、共産党攻撃の尖兵として、選挙の道具にしたのは自民党です。解散命令請求をしたことで、その癒着をありがたうと思っています。やむやににはなりません。



しかも、「被害者へ補償のために統一協会の財産を直ちに保全・凍結せよ」との当然の要求には背を向けています。このままでは、外国への多額の送金、資金隠しを許し、補償財源を枯渇させかねません。

自民党はこれまでの統一協会との癒着を心から反省し、被害者救済に真剣に向き合うべきです。